宮古民報

2019・4・21
〃　・5・5
第１６１０号

日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 930円

寄附総額の7割が市の財源

ダントツ多い市長におまかせ

ふるさと税

国はふるさと納税制度（納税）の過大な返戻品競争を問題視し、その見直しを進めていますが、宮古市の実績は以下のとおりです。

県内でも納税額14億２０００万円に対し、返戻品や業務代行費を差し引くと４億円余しか残らない自治体も生まれています。

宮古市は「納税」の使いみちを示し、返戻品の割合を２割に設定、寄付者が返戻品を望むかも選べるようにしています。

国保の18歳未満の均等割税額を全額免除出来たのも「納税」のうち「市長におまかせ」分が財源です。

使いみちは９種類

16～17年度の「納税」額累計は約３億８、９０万円です。使いみちは、「市長におまかせ」が１億９、５０７万円、「東日本大震災の保存」３、７５８万円、「津波遺構保存」１、６０８万円、「子育て環境の整備」１、０６４万円などです。

返戻品送料や業務代行費用は計３、５７５万円ですが、そのうち２、６０２万円が業務代行費用です。市は結果的に「納税」額の３割を費用に７割を財源化しています。

地域内経済循環へ

代行委託先は県外の大手企業であり、田中議員は地元人材の活用等、地域内経済循環の具体化を求めていますが、市は業務の効率的運用を優先させており、今後の改善が課題となっています。

市長への総括質問　田中市議

総合管理業務の評価は

【問】維持管理水準の向上、事務作業の効率化は分るが、コスト低減について納得のいく説明をいただきたい。

【答】建物も大きくなり、一つの系統を持って個々の管理よりは集約的にやることで管理コストも削減できると思った。

【問】プロポーザル方式で業者は決定しており、予算委員会では管理費用は４億２６００万円（５か年）の説明だが、新規交流センターを除く管理費用が旧庁舎と比べ、どれだけ安くなっているのか、説明を求めたのか。

【答】エレベーターの増設や空調等、機能が強化されており、単純な比較は困難だ。それらを除き、安くなるよう指示は出している。

【問】数字の詳細は決算委員会等で、する事にし、問題は地元の業者が管理業務に参加出来なくなった事だ。

総合管理業務の受け皿を地元企業でつくるべきではないか。今後改善意思はあるのか。

地元受け皿を期待

【答】地元でやれる事は地元で、という基本的考えは、私も議会も持っており、今後その間に是非とも民間で、管理できるような動きが出ることを期待している。

【問】入札時の仕様書に無い形で清掃業務時間が生まれているが、市長はご存知か。

【答】申し訳ないが、確認していない。

【問】事情等を確認し改善が可能であれば、そうして頂きたい。

（つづく）

洋上で輝くダイヤに

25日藤原ふ頭でダイヤモンドプリンセス（ステファノ　ラベラ船長）の入港歓迎式典が開かれ、船長などに新里小学生から歓迎の花束が贈られました。

ラベラ船長は挨拶で会社のモットーにふれ「洋上で輝くダイヤモンドが目標」とのべました。また、東日本大震災後、山本市長からの入港要請に「３年目で約束が果たせた。来年も２回入港する予定」と報告し、参加者の拍手を浴びました。

ラベラ船長（左から２人目）達に歓迎挨拶

浴衣着姿に喜びの声

「洋上に浮かぶマンションのよう」と参加した住民は興奮気味に感想を話していました。ふ頭には仮設店舗が乗船客を歓迎、宮古港海戦を記念した「維新テント」では浴衣や着物に着替えて喜ぶ姿も見られました。

末広町商店街では買い物と散策を楽しむ姿も見受けられ、いつにない賑わいを外国人観光客がつくりだしていました。

メーデー

安倍政権打倒へガンバロー

東日本大震災・福島原発事故から８年、引き続き一人ひとりの復興を前進させるため、生活再建や生業の再生など、みなさんと力を合わせてがんばります。

国土交通副大臣の「忖度」発言での辞任や桜田五輪担当大臣が辞任に追い込まれましたが、かばい続けた安倍首相の責任は重大です。市民と野党共闘を前進させ、消費税10％増税や国保料の値上げを許さず、人間らしく働けるルール作り、憲法とくらしを守る新しい政治の実現へ、「ウソと忖度」の安倍政権を倒すため、ともにがんばりましょう。参院議員　紙智子

漁火

いよいよ10連休の始まり。直訳すれば黄金週間だが、将来に不安を抱える多くの人々には無縁の出来事▼働き方改革と言えば聞こえが良いが、非正規雇用で働く労働者を多くするだけ。勤務時間も過労死を合理化する意図がうかがえる。また、外国人労働者に入れ替えも▼連休を心から楽しめる人には「わが世の春」。だが、世は格差社会。１日はメーデー。その格差に喘ぐ労働者の祭典の日であり、令和の元日▼元号は天皇を国民の上に置く歴史だが現憲法は主権在民。平成天皇は「象徴」の意味を常に自らに問い続けた。災害は多発したが、戦争が無い時代として時を終える▼現天皇は戦争の時代と災害への向き合い方で多くの人々の心を掴んだ。慰霊の旅と膝を折っての被災者お見舞い。言葉だけで無い寄り添う姿がそこにある。